

「大好きよっ」のメッセージを。

子どもはいつもお母さんの気に入らないことばかりしますね。命の成長の過程ではどうしてもそのような道を通らねばならないようです。

「何べん言ったらわかるのっ」 お気持ちはわかりますが、それが子どもなのです。何度でも繰り返し、親切に教えてあげましょう。そして叱った後は「それでも君が大好きなんだよ」と言葉で言ってあげるといいですね。

禁句・・・「こんな子、嫌いよっ」「あんたなんかうちの子じゃない」。子どもは、頼りにしている親御さんの否定的な言葉を真に受け、心が傷つき悲しくなるのです。けれども「悲しいよー」「心が痛いよー」と言えないのです。

「分かっているけど、どうしようもないんだ」。このようなモヤモヤが子どもだけでなく、大人の私どもにもありますね。そんな時、親も子も「悲しいよ」「つらいんだ」・・・大空に向かって大声で叫んでみるのもいいかもしれません。

子育ては毎日続くものです。ある日どうしても気分が悪くて子どもさんにあたったりして「まずかったかな」と思ったときは、勇気を出して子どもさんに「昨日、お母さん、イライラしていてあたってしまったね。ごめんね」と素直にあやまることです。

子供さんは幼くても大人のことをよく見ています。親御さんの率直な気持ちを優しく受けとめ、言葉で言えなくても「頼りになるお母さん」を心強く感じたりしていますよ。

私どもの子育てにおいて、「これでいいのだ、大丈夫ということはないのだ」という一言は本当です。いつの時も迷いがあり、後悔があります。

それでも与えられた役割を、投げ出さずにしっかり受け止め、何とか今を生きている。それで十分ではないでしょうか。

だから、明日のことまで思い悩むな。

明日のことは明日自らが思い悩む。

その日の苦労は、その日だけで十分である

マタイによる福音書 6 : 3 4